

「18歳選挙権」11万票の行方(下)

選挙権が18歳以上に引き下げられたことに伴い、主権者教育が県内の各学校でも実施されている。新たな重責を抱えた教員たちは政治的中立性の確保に神経をとがらせながら、さまざまな取り組みを通じて生徒らに新たな権利を周知している。一方で、「授業でどこまで踏み込んでいいのか」といった戸惑いや、政治への関心の低さに対する懸念も広がっている。

■回答の保留も

「生徒による校内での政治活動は制限または禁止ということだが、要するに禁止でないのか」。先月31日に千葉市美浜区で行われた、県内の公立高校の教員らを対象にした研修会。文部科学省の通知について、参加した教員から県教委、県選管の職員に質問が相次いだ。

昨年発出された文科省の通知では、それまで全面的に禁止されていた高校生による政治活動を部分的に容認するとした。前述の質問への県教委の回答は「本来の教育活動に合わないものならば、制限または禁止でよろしいかと思

ます」とする、あいまいさを残すものだった。

このほか、「生徒に『選挙に行ったか?』と尋ねることも(投票の秘密保持の観点から)いけないのか」との質問に対しては県選管は回答を保留。後日、「公選法には抵触しないが、投票の秘密の保持には触れる可能性もある」とする見解を公表した。

県選管は「あれは駄目。これも駄目」と禁止するのは



簡単だが、教育現場を萎縮させたくない。きりきりの表現での回答になるので、慎重にならざるを得ない」と漏らす。

■「使命感が湧く」

学校現場では模擬投票などが盛んに実施されている。生浜高校(千葉市中央区)は13日、市内7校の代表生徒21人

■前回参院選(平成25年)千葉選挙区の投票率

20~24歳	29.64%
25~29歳	30.98%
30~34歳	35.10%
35~39歳	39.21%
40~44歳	43.05%
45~49歳	47.49%
50~54歳	54.34%
55~59歳	59.02%
60~64歳	62.81%
65~69歳	66.06%
70~74歳	67.98%
75~79歳	64.03%
80歳以上	41.37%
全体	49.22%

※県選管の抽出調査より

中立性や秘密保持 戸惑う教育現場



実際の選挙で使用される投票箱を用いて行われた模擬投票
13日、千葉市中央区塩田町の生浜高(林修太郎撮影)

が立案した政策について、各校の生徒が学校をまたいで投票するという大規模な模擬投票に参加し、3年生や定時制で学ぶ生徒約200人が投票した。

3年の片山聖さん(17)は、「もうすぐ選挙権がもらえると思うと、『投票するぞ』という使命感が湧く。社会への関心も高まる」と意欲満々。同じ3年の神越佳穂さん(17)は「選挙権を持つことに責任を感じる」。

一方で生徒たちは、選挙権に伴い、高校生が選挙違反行為に巻き込まれる可能性が生じることについては「大人のことだと思った」「関係ないと思ってた」と、念頭にはなかった様子だった。また、取材では選挙について「よく分からない」と正直に吐露する意見も聞かれた。政治に関心な若者も多いのが実態のようだ。

青柳表鑑教頭は「生徒が社会に目を向ける良いきっかけになる」と歓迎する一方、

「この学校からは選挙違反者を1人も出したくない。とはいえ、公正・中立な指導といっても、どうしてもいい部分からない部分もある。政治活動といっても、どこから該当するのか。面倒でも、そういうことを一つ一つ選管に聞きながらやるしかない」と現場の苦悩をのぞかせた。

前回参院選での千葉選挙区の投票率は全国平均を下回る49・22%。県選管の抽出調査によると、20~24歳と25~29歳の投票率はいずれも30%前後で、他の世代に比べて特に低い。

県選管の担当者は「10代の投票率は全く読めない」と気をもむ。「一般的に考えれば、成人より政治への関心は低いかもしれないが、18歳選挙権が導入される選挙なので、何とか関心を持ってもらいたい」

この企画は中辻健太郎、林修太郎、大島悠亮が担当しました。